

第44回試験研究成果発表会プログラム

酪農・肉牛部門

日時 平成19年1月30日（火）10時～16時

場所 さんぶの森文化ホール（さんぶの森公園内）

山武市埴谷1904-5（TEL 0475-80-9100）

成果発表

10:10 持続的な自給飼料生産のための施肥

畜産総合研究センター 生産環境部 飼料研究室 青木ひかる

飼料作物の施肥管理について、補完的、慣例的に併用される化学肥料を見直したところ、堆肥を適正に施用すれば化学肥料をほとんどは施用しなくても、持続的な生産が可能である。

10:40 牛ふんの吸引通気式堆肥化とリン酸スクラバーおよび地域未利用資源による簡易脱臭法

畜産総合研究センター 生産環境部 環境・資源研究室 杉本清美

乳牛ふんを吸引方式で1ヶ月間通気したところ順調に堆肥化が進行した。発生したアンモニア臭気はリン酸スクラバーでほとんど脱臭できたが、残りの臭気成分は資材吸着では除去効果が低い場合があった。

11:10 食品製造副産物を活用した安価な乳酸発酵飼料による肉用牛の低コスト肥育

畜産総合研究センター 生産技術部 乳牛肉牛研究室 石崎重信

小麦ダスト、コーヒー豆薄皮、豆腐粕等を活用した発酵飼料を調製し黒毛和種去勢牛に給与した。枝肉の格付、価格は対照区より優れ、飼料費は約30%節減された。

11:40 凍結胚移植の受胎率向上を目指した各種要因の検討

畜産総合研究センター 市原乳牛研究所 村田宏之

ホルスタイン種未経産牛への凍結胚及び新鮮胚移植における移植操作時間・移植日・胚の発育ステージ等各種要因と受胎率の違いを比較検討した。この結果、凍結胚移植の受胎率の向上が考えられた。

情報提供

13:00 Heatsynch を用いた乳用未経産牛群の繁殖管理

畜産総合研究センター 市原乳牛研究所 牛島仁

卵胞発育の制御を伴う発情同期化法（Heatsynch）で乳用未経産牛の発情を誘起した。人工授精と胚移植の受卵牛に用いた時の当牧場の状況について概説する。

13：30 深部腔内電気抵抗値の測定による牛の発情確認

畜産総合研究センター 生産技術部 生物工学研究室 坂元克弥

深部腔内電気抵抗値の推移は卵巢の周期を反映しており、操作が簡易なところから直腸検査と併用することにより適確な発情診断が可能となる。

14：00 飼料イネサイレージと粕類を混合した発酵 TMR 飼料の泌乳牛への給与

畜産総合研究センター 生産技術部 乳牛肉牛研究室 江藤哲雄

飼料自給率の向上のため飼料イネ利用が積極的に施策展開されているが、嗜好性・利用性から泌乳牛への普及は制限されている。今回、泌乳牛への給与を目的とし、粕類を混合した発酵 TMR 飼料の有効性について検討した。

14：30 牛群検定成績から見た乳量階層別生産技術

畜産総合研究センター 嶺岡乳牛研究所 永福和明

2005 年における牛群検定参加農家 125 戸の検定成績を用い、乳量階層別に乳質成績、繁殖成績、経済性の各項目について集計し、階層別の生産技術水準について検討した。

養鶏部門

日 時 平成19年2月7日(水) 10時～14時

場 所 成田国際文化会館

成田市土屋303 (TEL 0476-23-1331)

成果発表

10:10 有機酸製剤などが採卵鶏の生産性および排せつ物に及ぼす影響

畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 青木大輔

繊維分解酵素を含む市販の有機酸製剤などを採卵鶏に給与した結果、産卵前期から M・L 卵の占める割合が高くなる群があった。排せつ物量は各添加群とも減少する傾向にあった。

10:35 3種類の飼料添加物などの給与が鶏の産卵性に及ぼす影響

畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 村野多可子

市販の3種類の飼料添加物などを70～120日齢の間、ジュリアとボリスブラウンに給与した結果、産卵率や卵質などに差は見られなかったが、卵の規格割合には大きな影響を与えた。

11:00 コンビニエンスストア残さ添加飼料給与が房総地どりの発育・肉質に及ぼす影響

畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 村野多可子

コンビニエンスストアから排出される賞味期限切れなどの食品の内高脂肪の素材をフレーク状にし、房総地どりに給与した結果、少ない飼料摂取量で良好な増体を示した。

情報提供

11:25 クランブル加工飼料の添加による採卵鶏の排泄ふん量低減化

畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 徳丸洋一

クランブル加工飼料を 5%、15%および 25%添加した一般採卵鶏用配合ジュリアに給与し、排せつふん量および成分、生産性などに及ぼす影響について調査した。

12:45 鳥インフルエンザと類似する鶏疾病の浸潤状況

北部家畜保健衛生所 衛生指導課 青木ふき乃

茨城で発生した弱毒性 HPAI は、ほぼ無症状で類似疾病との鑑別が困難だった。本病早期発見のため管内養鶏場 62 戸の飼養状況と類似疾病 (ND、EDS-76、AE、MG、MS、ワクモ) の浸潤調査を実施した。

13:05 採卵鶏の銘柄別性能比較試験

畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 村野多可子

採卵鶏の (ボリスブラウン、ゴトウもみじ、シェーバーホワイト、ハイラインマリア、デカルブ TX、バブコック、ジュリアライト、ジュリア) の 8 銘柄について、育成成績、産卵諸性能、卵質、糞中水分率などを調査した。

養豚部門

日時 平成19年2月16日(金) 10時~13時30分

場所 印旛農林振興センター

佐倉市鑄木仲田町8-1 (TEL 043-483-1125)

成果発表

10:10 DNAマーカーによる親子判定法の開発

畜産総合研究センター 生産技術部 生物工学研究室 山口倫子

流通する豚肉の多くを占める三元交雑豚の親子判定に有効な DNA マーカーを選定し、実際に親子判定を行ったところ判定率は 99.7%であった。

10:30 三元交雑豚WLDの止め雄の違いによる産肉性の比較

畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 鈴木邦夫

系統豚の有効利用を図るため、止め雄としてユメサクラ、シモフリレッド、サイボクの 3 系統を交配した三元交雑豚WLDの産肉性について比較したところ、ユメサクラの交配は良好であった。

情報提供

10:50 銘柄豚肉「房総ポークC」専用飼料を使った肉豚の産肉性及び肉質

畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 高橋圭二

本県の銘柄豚肉「房総ポークC」は、肥育後期にキャッサバと海草粉末を添加し、脂肪は植物性のものだけを使用した独特の飼料を給与した豚肉です。そのエサの効果について報告します。

11:10 肥育豚におけるコンビニエンスストア残さの有効利用

畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 松本友紀子

豚において肥育後期に乾燥処理したコンビニエンスストア残さを、肥育用飼料に配合して給与したところ、肥育試験および肉質検査において良好な成績が得られた。

11:30 養豚農家における人工授精の実態と意識

畜産総合研究センター 企画調整部 経営調査室 鈴木一好

豚人工授精の農家での現状及び取組み意識を調査したところ、人工授精導入による種雄豚飼養頭数削減効果が認められた。また、夏季の受胎率向上効果への期待が大きかった。

12:45 養豚場の環境及び疾病調査と衛生管理の改善

北部家畜保健衛生所 環境指導課 堤節子

10戸の豚舎内環境、疾病調査(AD・PRRS等)をし、改善指導した。簡易離乳子豚舎は全面スノコより事故率が低く、子豚期の隔離飼育により事故率は低減、疾病蔓延を防止していた。